

今月のことば

～保育のビタミン～



そのままが好きと言わされて、不安

佐々木 哲生

もし、あなたが肩肘張つて生きているのに、「そのままが好き！」とか言われたらちよつと辛いのではありませんか。しかもそれが、好意を寄せている異性からの言葉だと、なおさらではないでしょうか。

やつぱり、ありのままの自分を好きになつてもらうのが一番ですよね。子どもたちは、園の中では、年齢が上がつていくごとに、子どもなりにけつこう気をつかうようになるものです。特に、集団生活の中でみんなと仲良く過ごすためには、家庭のようなワガママを言つていたのでは、友だちから「ダメだよ！」って注意されたり、一緒に遊びたいと思っても、仲間に入れてもらえないこともあります。

また、保育の時間は、みんなと一緒に歌つたり、踊つたり、絵を描いたり、演奏をしたり、体操をしたり…と、いろんなことを「みんな

と同じように、きちんとこなさなくては！」と、周囲に気をつかつて、自分なりに必死に頑張つていたりすることもあるようです。

中には、「大好きな先生から嫌われないよう…」と「肩肘張つて」、精一杯「良い子」を演じてゐる子もいたりします。でも、そんな子は、必要以上にほめられると、「本当は良い子でないことがバレたらどうしよう…」という、不安を抱えていたりするかもしれません。

確かに、子ども一人ひとりの心の内を見抜くことはなかなか難しいのですが、子どもそれぞれの持ち味を認めるることはできると思います。だから、「あなたという人間は、この世界に一人しかいないんだよ」と、自分が自分であることに、安心感を与えてもらえませんか。